

みる つくる  
かたる

2010

Art VOL.37  
(通巻99号)

ART NEWS

千葉県立美術館報

平成 22 年度企画展 **不破 章 展**  
Fuwa Akira 旅・ひと・自然——水彩画の即興詩を歌う

平成 23 年 1 月 22 日 (土) ~ 平成 23 年 2 月 27 日 (日)

開館時間 9:00 ~ 16:30

休館日 月曜日

入場料 一般 500 円 (400 円) ( ) 内は 20 名以上の団体料金

高校・大学生 250 円 (200 円)

中学生以下・65 歳以上は無料

※詳しいことはお問い合わせください

不破章 (1901 - 1979) は、水彩画家とし大正末期から昭和五十年代半ばまで半世紀にわたり活躍しました。国内外の自然をモチーフとした作品だけでなく人物を題材とした作品も多く、日展では 1953 年に『二女』が特選と朝倉賞、1956 年に『姉妹三人』が岡田賞を受賞するなど高い評価を得ており、昭和を代表する水彩画家のひとりです。

日本水彩画会の指導者石井柏亭の門下生であった不破は、柏亭に水彩画の人物画が少ないので、人物画を勉強するように言われたのを機会に、本格的に取り組むようになりました。中沢弘光や柏亭の描く人物画が持つ、水彩画らしいさわやかな味わいに感動し、水彩画による自分らしい人物画を描くことを目標にします。油彩画がも



『三人姉妹』(1958)

つ強い色彩と濃厚な表現に対し、軽快で爽快な水彩画らしい表現の人物画を描けると考えていました。人物画といっても、肖像画のように特定の人物を描くというより、人間の生活に目を向け、身近な家族をモデルにした日常の一コマや働く女性の姿を描いた作品を多く残しました。不破は、自作の解説の中で「その他、風俗画としての人間を主題

とした人物画もあるわけだ。人間生活を描くことが絵画の終極の目標であるといった人もある」と述べ、人物とその環境を切り離さず、そのかわりを描くことをテーマに、都会、街頭風景、公園や青空市場などにモチーフを求め、「風景を配した人物画」を後年描くようになりました。

若い時に、大下藤次郎の「水彩写生旅行」をよみ、新しい画因を求めて未踏の地へ旅をする画家としての姿勢に感動した不破は、風景や人物を発見し、共感できる親しみのある画因を探して国内外を終生旅します。特に、国内では、甲信越地方を頻



『白馬野平』(1973)

繁に訪れ、四季折々の自然の表情を作品に残しました。国外においては、晩年、台湾を大変気に入



『屏東公園の正月 (台湾の市場にて)』(1973)

り、1969 年から 9 回訪れています。毎年、1 月になると台湾に入り、「日本の寒い時期に温かい台湾で描くことは、画家としての命が延びるような気がする」と言って精力的に台湾全土を旅しました。日本と違う風土と文化をそこに住む人々の目線で優しく描き、一か月程の滞

在中、日本から準備した 50 枚ほどの水彩画紙全部を描き切ったとい

います。自分の作品は日々の記録とし

て描くものとし、水彩はすぐに描ける画材で、旅の感動を即興的に表現

できることが大きな魅力であり利点と考えていました。水彩画の本質は透明感のある鮮やかな色彩にあるという信念を持ち、重色によって色が濁ることを嫌い、重ねる回数を極力抑え、にじみの表現も最小限にして描きました。現場で感じる空気や音などの五感を大切にしながら作品を仕上げていきました。鮮やかな色彩で表現した作品は、年を重ねても変わることなく、不破は水彩画

のカラリストと評されるようになりました。

(学芸課 石崎千津子)

# 平成 22 年度企画展 **不破章展** 旅・ひと・自然——水彩画の即興詩を歌う **関連事業**

不破章の芸術をさらに深く理解していただくため、講演会、ギャラリートーク、ワークショップなどを企画しています。申し込みが必要なイベントもありますので、お早めにお申してください。

## 美術講演会

「日本の水彩画 20 不破章」の著作者で、元千葉県立美術館の学芸員そして館長として、千葉県立美術館の水彩画コレクションの充実に努めた米田耕司氏（現長崎県美術館館長）を講師に迎え、不破章の魅力についてうかがいます。

日 時 平成 23 年 1 月 29 日（土） 14:00 ～

会 場 千葉県立美術館講堂 定員 200 名

演 題 「日本の水彩画と不破章」

講 師 米田耕司氏（長崎県美術館館長）

入 場 料 無料

参加方法 申し込みは必要ありません。当日、直接、会場までお越しください。

## ギャラリートーク

不破章展期間中、毎週日曜日の午後 2 時からギャラリートークを行います。参加申込みは不要ですが、会場への入場料が必要です。当日直接、不破章展会場へお越しください。

開催日時 1 月 23 日（日） / 1 月 30 日（日）

2 月 6 日（日） / 2 月 13 日（日）

2 月 20 日（日） / 2 月 27 日（日）

いずれも 14:00 ～



平成 21 年度ギャラリートーク風景



平成 20 年度ミュージアムコンサート風景

## 企画展関連ワークショップ

企画展「不破章展」を鑑賞後、不破が好んだ透明水彩絵の具を用いて、ワークショップを行います。

塗り重ねると別な色が生まれる透明水彩絵の具の魅力を楽しみながら、参加者同士が触れ合える内容になっています。透明水彩の瑞々しい感覚を味わいながら、完成した作品同士の色のパーツをあわせて、大きな作品に仕上げます。

日 時 平成 23 年 2 月 11 日（金・祝） 13:00 ～

対 象 小中学生 30 名（応募者多数の場合は抽選）

参加費 1,000 円

参加方法 往復葉書にワークショップ名、住所、電話番号、名前、学校名、学年を明記の上、お申込み下さい。複数で申し込む場合は、全員の方のお名前をご記入ください。

申込締切 平成 23 年 2 月 1 日（火）

定員に達しなかった場合など、締切日を過ぎても参加できる場合があります。お問い合わせください。

## ミュージアムコンサート

日 時 平成 23 年 2 月 5 日（土） 14:00 ～ 15:30

会 場 千葉県立美術館講堂

演 奏 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバー

内 容 歌とピアノ三重奏による名曲の調べ～自然の風景に寄せて～

対 象 一般

定 員 200 名（応募多数の場合は抽選）

入 場 料 無料

参加方法 往復葉書に住所、電話番号、名前を明記の上、お申込み下さい。

申込締切 平成 23 年 1 月 26 日（水）

定員に達しなかった場合など、締切日を過ぎても参加できる場合があります。お問い合わせください。

### 3月～4月に開催される「アート・コレクション展」

収蔵作品をテーマに沿って紹介している「アート・コレクション展」では、企画展「不破章展」終了後、「アート・セレクション」「コレクション50」より、「浅井忠・フォンタネージとバルビゾン派」「浜口陽三のメゾチント」、「水辺の風景」の、4つのテーマにより開催します。

#### アート・コレクション

##### アート・セレクション「コレクション50」より

3月5日(土)～4月10日(日) 【第1展示室】

2004年(平成16)に当館が刊行した『アート・コレクション50』で紹介した、各ジャンルの作家の作品のなかから、日本画・洋画・彫刻・工芸の作品を紹介します。



石井林響  
『漁樵』

#### アート・コレクション

##### 浅井忠・フォンタネージとバルビゾン派

3月5日(土)～3月31日(木) 【第2展示室】

千葉県ゆかりの洋画家、浅井忠を中心に、浅井が工部美術学校で指導を受けた、イタリア人画家、フォンタネージの作品と、フォンタネージが影響を受けた、ミレー、コロー、クールベなど、バルビゾン派と呼ばれるフランスの風景画家たちの作品を紹介します。

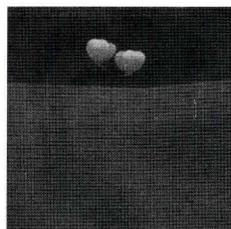


浅井忠『フォンテンブローの夕景』 ルソー『バルビゾンの農場』

#### アート・コレクション 浜口陽三のメゾチント

3月5日(土)～4月10日(日) 【第3展示室】

少年期を銚子で過ごし、フランスに渡り、「カラー・メゾチント」と呼ばれる、微細な模様を特徴とする独自の技法によって、サンパウロ・ビエンナーレ版画大賞を受賞するなど、国際的に活躍した浜口陽三の作品を紹介します。



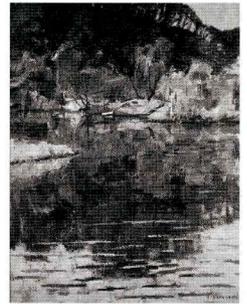
浜口陽三『二匹の蝶』

#### アート・コレクション 水辺の風景

3月5日(土)～4月24日(日)

【第8展示室】

水辺には人々の暮らしがあり、さまざまな動植物が生息し、その景観は変化に富んでいます。ここでは、水辺の様子を描いた絵画作品を紹介します。



櫻田精一『白い舟』

### 平成22年度の教育普及事業から…

#### ◆教師のためのアートガイダンス

美術館を学校教育でより有効に活用してもらうために、先生方を対象とした研修を7月27日に実施し、77名の先生方が参加されました。

全体会にて美術館の普及活動を紹介した後、鑑賞教育コースと創作体験コースに分かれて研修を行いました。鑑賞教育コースでは、館内のバックヤード見学を行った後、現在主流となっている2つの代表的な鑑賞方法についての研究討議を行いました。創作体験コースでは、インクを使わないで手軽に刷れる版画技法の研修を行い、先生方から「今度授業でやってみたい」と好評を博することができました。

#### ◆職場体験

本年度は中学校11校、高校2校から計63名の職場体験を受け入れました。1日の体験もあれば、2日間の体験もありましたが、どちらも美術館のバックヤードツアーを行い、美術館での仕事について説明を行いました。2日コースの場合は、さらに野外彫刻の清掃や書庫整理などの実務体験や、美術作品の取り扱い練習等を行いました。どの学校の生徒さんも、体験終了後に丁寧なお礼状を下さり、職員一同の何よりの励ましとなっています。

#### ◆博物館実習

博物館学芸員を目指す8大学9名の大学生が、7月29日から8月3日までの6日間、当館にて実務実習を体験しました。



実習では、作品の取り扱い方や調書の作成、作品の展示等の展示業務をはじめ、スタッフとしてワークショップに参加するなど、普及業務の体験も行いました。また、美術館講座を受講している高校生を対象にギャラリートークを行うなど、大学で学んだ知識や経験を実際に活かす場面も多々ありました。実習生たちは、美術館や学芸員に対する認識を深め、決意を新たにされたようでした。

## 美術館と学校の連携事業 2010...

### ◆大学生対象 ワークショップの共催

9月中旬から年末にかけて、美術館の庭に5体の巨大な木のオブジェが現れました。これは、9月18日に行われた「100人ワークショップ〜等身大から始めよう〜」にて制作した作品です。このワークショップは千葉大学教育学部加藤研究室との連携事業で、中学校・大学・美術館による博学連携を目指して開催されました。大学生達は、当日の運営はもちろん、企画立案、事前準備にも携わりました。今後も大学との連携を強化し、地域に貢献できるようなワークショップを実施したいと考えています。



### ◆高校生対象 美術館講座

美術館に来館し、学芸員の体験ができる本講座。今年で連携3年目の幕張総合高校の2～3年生11名が、4月から10月までの15回70時間を受講しました。



受講生は、作品研究を行い、作品の配置や展覧会名称を考え、チラシやポスターを作成し広報活動も行いました。今年は、本物の作品により多くふれる機会として、展示会場で作品について受講生の仲間に語る時間を作りました。回を重ねるごとに慣れ、展覧会最終日に30人ほどの来館者を前に、研究成果を堂々と語ることができました。また、ワークショップにスタッフの一員として参加しました。生徒たちは学芸員の仕事の一部を知ること、「美術館」が身近な存在になったようです。

### ◆高校生インターンシップ・美術館セミナー

夏休み期間の8月16・17日の2日間高校生インターンシップ・美術館セミナーを実施しました。

参加校は7校で、近年にはない定員一杯の20名の参加があり、参加地域も千葉市周辺だけではなく銚子や一宮など幅広く、学年も1～3年生がそろいました。参加者は学芸員の仕事について幅広い体験をし、高校生どうしの交流もでき、充実した2日間になったようです。

### ◆高校生によるサマーコンサート

県立千葉女子高等学校オーケストラ部約100名によるコンサートを夏休み中の7月24日に開催しました。曲目は、ラ・ヴェル



作曲『ラ・ヴァルス』、ビゼー作曲『アルルの女』第二組曲より「ファランドール」など親しまれている曲に加え、久石讓作曲『となりのトトロ』より「さんぽ」で楽器紹介をするなど、こどもも楽しめる

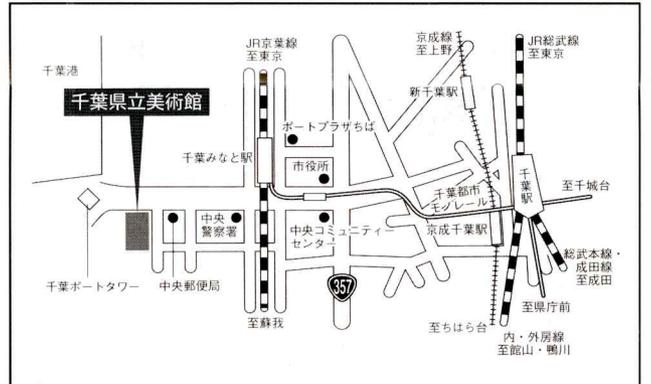
選曲や演奏は好評で、490名の参加者がありました。

### ◆中学生対象 複製画を使用した鑑賞授業（出張鑑賞授業）

クールベの「嵐」について、とある中学生はこう述べました。「この絵はきっと、作者が失恋した時の気持ちを表しているんだと思う。この難破した船が作者自身です」現在千葉県美には45点の複製画があり、今回はその中から13点を選んで鑑賞の授業を行いました。この授業では、絵についての正しい知識を学ぶことが目的ではなく、「学芸員になったつもりで作品の解説をしてみよう」というゲーム形式の鑑賞を行い、絵画を身近に感じてもらうことを目的としました。このような複製画を利用した出張鑑賞授業は、今年度2件実施しましたが、今後は新たに製作したアート・カードを併せて使用するプログラム等を整備して中学校との連携を深めていきたいと思ひます。

### ◆小学生対象 新しい鑑賞プログラムの開発（出張鑑賞授業+来館鑑賞）

「あ、この絵この前学校で見たやつだ！」「うわあ、本物だ」「思っていたよりおおきいなあ」驚きと発見の喜びに満ちた声、いつもは静かな展示室内に沸き起こりました。数年前より総合研究大学院大学の奥本博士と共同で開発している、パソコンを使用しての事前学習プログラムを行った小学3年生の児童が、実際に美術館を訪れたのです。通常、小学生の子どもが美術館で作品を鑑賞しても、あまりキャプションには注目しませんが、今回は違います。彼らは作品を鑑賞するだけではなく、この「展示」自体を鑑賞する視点を獲得しているからです。「博物館認知オリエンテーション型鑑賞法（COM型鑑賞法）」は、作品同士のつながりや、作品と作者または時代など関連付けて鑑賞するという新しい鑑賞方法です。今年度は2校で実験実施を行いました。来年度は公開実施を行い、さらにたくさんの子どもたちとこの鑑賞法を練り上げていきたいと思ひます。



開館時間 午前9時～午後4時30分  
 入場料 アート・コレクション展 一般300円 高校・大学生150円  
 企画展「不破章」展 一般500円 高校・大学生250円  
 中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方（介護者含む）は無料  
 交通 JR京葉線・千葉都市モノレール「千葉みなと」から徒歩10分  
 〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 Tel:043-242-8311 Fax:043-241-7880  
<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

千葉県立美術館報「みる かたる つくる」VOL37（通巻99号）

2011年1月31日発行